

活動テーマ

人びとによって生きられた歴史の発掘と継承
～子育てや教育に関する習俗の再発見と再創造を中心に～

皆野町日野沢・金沢地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

皆野町日野沢・金沢地域住民への聞き取り調査や地域における子育て・教育に関する知見の収集を通して、地域における自然や文化、社会的資源の再発見と再創造を行い、地域再生の典型となる事例として本学のカリキュラムづくりに応用する。併せて With Corona 時代における地域づくりの視点も考察する。さらに、この活動で得た子育てや教育に関する知見や人びとによって“生きられた歴史”などの成果を地域に還元する。皆野町金沢地区における地域支援活動をフォローアップし、地域活性化に貢献する。

2 活動地域の現状

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により活動の内容や方法が制限された。従来から地域において開催されていた“つつじ祭り(5月5日、金沢地区)”、“かたくり祭(3月下旬、金沢地区)”、“ふれあい祭(10月、皆野町)”などの行事が中止になる。こうした状況のなかで活動に制約があった。その中で地域の人たちとの話し合いを重ね、できる範囲で地域の方々と協働することができた。こうした状況ではあるが、その厳しい状況のなか、出牛人形浄瑠璃に関して、秩父の三地域が共同して実施している人形サミットが3年ぶりに皆野町において実施された。出牛人形浄瑠璃は、金沢地区が県から有形文化財の指定を受けた民俗芸能である。こうした取り組みが少しずつ復活する中で、地域の活力が次第に回復していくようにも感じた。

今後の取り組みに対して今年度からは、金沢地区に加えて、日野沢地区において、活動を展開することとなった。皆野町前町長の石木戸道也さんによれば、日野沢地区においても、新型コロナウイルス感染症の拡大は地域活動に対して相当な影響を与えている。従来から取り組まれた地域の伝統が次第に忘れ去られてしまうのではないかと、という心配の声を伺った。金沢地区においては、地域住民の高齢化や少子化がさらにすすんでおり、今年度中心的に取り組んだ“たたら里加工センター”においても、今後の活動継続が難しいとの話を伺った。引き続き、地域の方たちの声に耳を傾けながら、活動を展開する必要性を強く感じた。

3 活動内容

今年度は、“たたら里加工センター”での新商品開発に力を傾けた。金沢地区の皆さんとの話し合いにより、新型コロナウイルス感染症の状況がまだまだよくなるとはいえない中、センターでの取り組みに注力した。その上で、従来から支援活動を展開してきた金沢地区のあじさい園やカタクリの里についての現地調査、新規地区である日野沢地区への現地調査を展開した。特に、日野沢地区在住の石木戸道也さん(前皆野町長)からの情報により、この地域で古くから活用されてきた水車が移設され、展示されている埼玉県立川の博物館を訪ね、その現状を調査した。金沢地区においては、新井義虎さんや四方田忠則さんへインタビューに関するフォローアップ活動を実施した。



(加工センターにて商品開発をする様子)

4 成果

① 新商品の開発が順調にできたこと

今年度注力した“たたらの里加工センター”において継続的に展開している新商品開発について、「たたらの里ケーキ（仮称）」のブラッシュアップを実施した。より一層の質向上を目指して、センター職員のみなさんとの協働により新たなバリエーションを検討していった。新商品のトッピング・アレンジとして、“しゃくし菜”、“チーズ”、“チョコレート”、“干し芋”、“ごま”、“甘栗”などを使った。交流の中で生まれたアイデアとして、生地を増やしたり、減らしたり、材料を入れる順番を変えてみたり、オーブンの温度を変えてみたり、焼き時間を変えてみたり、様々な工夫をした。回を重ねるごとに、味や見た目がよくなってきていると感じた。

② 新しい地域の人々とも交流ができたこと

今回は、新規交流地域である日野沢地区を訪れることができた。この地域に暮らし、地域を近くで見てきた石木戸道也さんから、貴重な話を聞くことができた。



(ラッピングしたたたらの里ケーキ)



(石木戸さん宅にて挨拶をした様子)

③ 現地調査

金沢地区においては、浦山のアジサイ園やかたくりの里に関する調査（8月）を継続し、日野沢地区では、“総合ゼミナール”の受講生の協力により、日野沢地区の調査（10月）を行った。特に、埼玉県立川の博物館へは、3・4年生の支援隊員が協力し、日野沢地区において取り組まれた産業や伝統文化に関する調査（8月）が実施できた。

5 課題

① 地域の中で、地域の方が取り組みを続けていくこと

地域の中心となっている方々がご高齢なこともあり、ご自身の健康についても考え、取り組みを今後も続けていくことに関して不安感を少なからず抱いている印象を受けた。地

域の方の声や支えのお陰でどうにか続けられているというようなこともおっしゃっていた。四方田忠則さん、新井義虎さん、高橋富美子さんにしても、中心になっている人がいなくなってしまうと取り組みが続かなくなってしまう可能性がある。そのため、今後も地域の中で支え合うこと、次世代へ引き継ぐという点においても課題がある。

② 金沢たたらの里加工センターの運営・新商品の価格設定が難しいこと

職員の皆さんがそれぞれ高齢であり、このところの光熱水料の相次ぐ値上げがセンターの運営をより困難にしていることなどから、果たして来年度もセンターを運営していけるだろうかという危機感がもたらされた。パンデミックに加えて、円安や諸物価、特にライフラインである電気やガスの価格高騰などが地域の生活、センターの運営を直撃しているという印象であった。

また、加工センターで製造、販売している商品は、主に地域の方や観光で来た方を対象にしており、価格を高く設定するのではなく、購入者の手に取りやすく、親しまれる価格設定がされている。しかし、加工センターの商品は手作りで製造しているため、市販されている商品と比べると価格が高くなってしまい、客足をこちらに向けるのは難しい。さらに、価格高騰による、原材料費、容器代、パッケージデザイン（見栄え）のバランスも難しいと感じた。

③ 新型コロナウイルスの影響で地域行事やその他の活動に制約があったこと

新型コロナウイルス感染症の影響で、「皆野町ふれあい祭り」や「つつじ祭り」など本来行われていたイベント等が開催されなかったため、新たな方々と交流することが少なかったと感じている。

6 次年度以降の計画

- ① 引き続き開発したカリキュラム（令和4年度から「総合ゼミナール（全学共通教育科目—3年次生対象）」を設置、開設し今日に至る）を本学において試行し、外部資金を活用の上、対象地域を支援する。
- ② 関係者へのインタビューを継続し、“生きられた歴史”に関する調査を継続する。
- ③ SNS やパンフレット等を使った情報発信を継続して行う。
- ④ 卒業生による「ふるさと支援隊」支援の枠組みを構築する。
- ⑤ 拡大した対象地域である「皆野町日野沢地区」に関する調査を継続し、前皆野町長の石木戸道也氏から、地域に関する情報を得、フィールドワークを実施する。
- ⑥ 従来から支援を継続してきた「皆野町金沢地区」について、3年間中止となっていた「つつじ祭り（5月5日実施予定）」が再開される可能性があるとのことで、その実施に関する支援を行う。
- ⑦ 金沢たたらの里加工センターにおける新商品開発について、フォローアップ活動を行う。

